

馬産地ライター村本浩平の 2022 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 4 | 10.4[火] ▶ 11.10[木] 開催分

10.4 [火] ニューイヤーズデイ賞 【ブロッサムカップ(H2)】

ニューイヤーズデイは現役時に3戦2勝。主な勝ち鞍にはGIBCジュヴェナイルとなります。BCジュヴェナイルではHavana、Strong Mandateと2頭のGI馬を退けて優勝。その後は怪我もあって2歳時に引退を発表し、早すぎる種牡馬入りとなりましたが、2年目産駒のMaximum SecurityがGIフロリダダービーなどGIレースで3勝をあげ、エクリプス賞最優秀3歳牡馬に選出。その活躍とタイミングを合わせるかのように、社台スタリオンステーションへの導入が発表されます。Maximum Securityの競走成績からしても、産駒はクラシック戦線を沸きたたせるような走りも期待できそうです。

10.13 [木] デklarेशनオブウォー賞 【瑞穂賞(H2)】

初年度
産駒
デビュー

デklarेशनオブウォーは現役時に13戦7勝。主な勝ち鞍にはGIヨークインターナショナルS、GIクイーンアンSなどがあります。芝やオールウェザーでの競争実績もさることながら、ラストランとなったGIBCクラシックでは初ダート戦ながらも3着に入着。競走馬としての万能さを証明してみせます。現役引退後はアイルランド、アメリカ、オーストラリアで供用され、高い競走能力を遺伝された産駒たちは世界各国でその名を轟かせています。2019年からは日本軽種馬協会静内種馬場で繋養を開始。日本で誕生した産駒たちは本年度デビューをしており、芝、ダートを問わない活躍を見せています。

11.3 [木・祝] サンダースノー賞 【JBC2歳優駿(JpnⅢ)】

サンダースノーは現役時に24戦8勝。主な勝ち鞍にはGIDバイワールドC(2回)、GIジャンプラ賞、GIクリテリウムアンテルナショナルなどがあります。ドバイワールドCでは史上初の連覇を達成。しかも、2歳時と3歳時には芝の短距離GIでも勝利と条件を問わない活躍もさることながら、3着以内が19回という安定感も特筆すべき数字でしょう。2020年からダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスで繋養を開始。繋養初年度、2年目と150頭以上の繁殖牝馬を集める人気ぶりで、今年の1歳市場に上場された初年度産駒たちも売却率、取引額ともに高い評価を受けています。

11.9 [水] ファインニードル賞 【道営スプリント(H1)】

初年度
産駒
デビュー

ファインニードルは現役時に28戦10勝。主な勝ち鞍にはGI高松宮記念、GIスプリンターズSがあります。4歳時にオープン入りを果たすと、その年のGIIセントウルSで重賞初制覇。5歳時にはGⅢシルクロードSに続き高松宮記念も優勝。秋にもセントウルS連覇、そしてスプリンターズSにも勝利と、国内のスプリント重賞で4戦4勝の成績を残します。現役引退後の2019年からは父アドマイヤムーンも繋養されている、ダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスでスタッドイン。初年度産駒は本年度にデビューしており、ウメムスビがJRAの産駒初勝利をあげています。

11.10 [木] リオンディーズ賞 【道営記念(H1)】

リオンディーズは現役時に5戦2勝。主な勝ち鞍にはGI朝日杯FSがあります。母はシーザリオで半兄はエピファネア。半弟はサートゥルナーリアと、この母仔であげたGIタイトルの数はなんと7勝。その中でもデビュー2戦目の朝日杯FSでGI制覇と、最も鮮烈な印象を残しました。種牡馬入り後も初年度産駒のリプレーサがJpnⅡ兵庫ChSを優勝。2年目産駒のジャスティンロックもGⅢ京都2歳Sを優勝するなど、年齢や条件を問うことなく重賞馬を輩出し続けています。サイアーランキングも年々アップしており、父にGIタイトルを授ける産駒もそう遠くない時期に出てきそうです。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパングリーダースカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

